



ヤマ人と入墨 はばをきかした刺青イレズミ。
 昔々犯罪者を獄舎から出すとき体にイレズミして前科の
 印にしていたと言ふ時 時が変つて俠客、男を
 売出す表看板になり ヤマではイレズミのないものは
 下ざい人でないと軽蔑 それ馬鹿あつかいにされた
 よつて仕事は下手でも皆入れたものである スジホリ
 のときは特に痛むのでガマンとも云いホリモノとも
 言ふ 明治廿七八年頃には若い人も入れぬものが
 多くなつたボツくはばがね採になつたからである。

山作
 断層切抜

山作
 伊予の銅山カネ吹音は
 きこえますよ本松山は
 ドッコイ

「ヤマ人と入墨」(1969年) ©YAMAMOTO FAMILY

博多阪急 開業1周年・ユネスコ世界記憶遺産登録 記念

山本作兵衛 炭坑画展



2月15日(水)~28日(火) ※催し最終日は午後5時終了

- 7階イベントホール『ミューズ』
- 入場料300円 高校生以下 無料
 博多阪急エメラルドカードをお持ちの方はご本人様無料
 博多阪急ポイントカードをお持ちの方は50円優待(カード1枚につき4名様まで)

約50年におよぶ炭坑労働者としての経験を基に、“子や孫にヤマ(炭坑)の姿を伝える”ために描き始めた山本作兵衛氏。昨年5月、炭坑記録画と呼ばれる彼の作品が、日本初のユネスコ世界記憶遺産に登録されました。これを記念し、故人にゆかりある個人所有の原画約30点を展示いたします。

Hankyu

炭^ヤ鋌^マに生き、
 炭^ヤ坑^マを描く。

※表示価格は消費税を含んだ税込価格です。

山本作兵衛 炭坑画展

世界史的にも意義深い日本の近代化で、重要な役割を果たした筑豊炭田。そのヤマの記憶を、実際の炭坑労働者だった山本作兵衛氏は、炭坑記録画や日記等によって詳細に記録していました。これらの記録は、個人にとどまらない社会集団の記憶を具現化したものであり、人類が共有する近代社会の記憶として、世界的に高い評価を受けています。日本の近代化を支えた筑豊炭田とは、いかなるものであったのか。山本作兵衛氏の目を通して筑豊のヤマを大観し、ヤマの記憶を体感してください。



撮影 本橋 成一



「明治 セナ」(1970年)



「母子入坑」(1974年)



「明治 ヤマの浴場」(1977年)

©YAMAMOTO FAMILY

山本作兵衛

やまもと さくべえ (1892~1984)

7歳から父について兄と共に炭坑に入り、63歳まで炭坑労働に携わる。66歳より本格的に炭坑の記録画を描き始め、92歳まで精力的に創作活動を行った。その作品数は、一千点を超えると言われている。

暮らしの学校

博多阪急

T812-0012
福岡市博多区博多駅中央街1番1号
電話 (092) 461-1381

ユネスコ世界記憶遺産とは

ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が主催する三大遺産事業のひとつで、1992年にスタートした。直筆文書・書籍・絵巻物・地図・音楽・写真・映画など、世界史的に重要な記録の保護と活用を目的としている。

地階～4階 あさ10時→よる9時 5階～8階 あさ10時→よる8時（一部売場を除く）